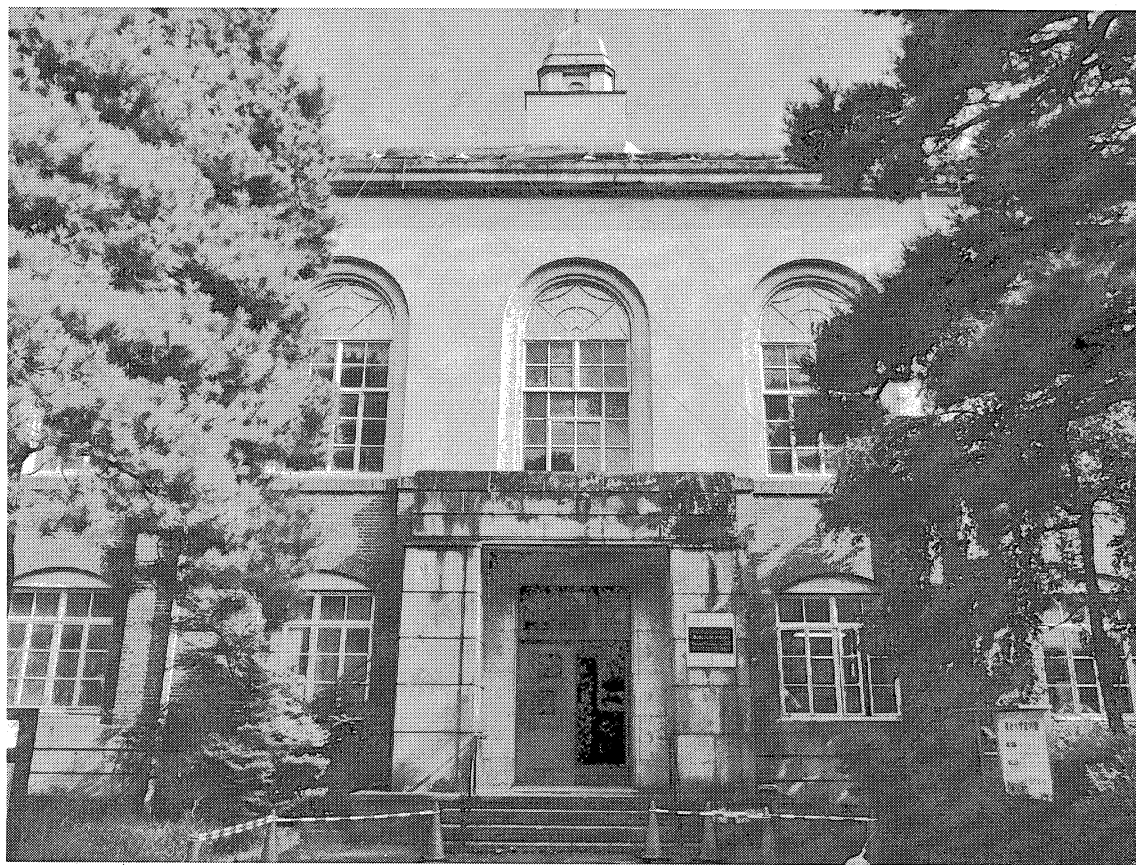


6. 東北大学史料館



史料館の建物（東日本大震災のため、屋根にブルーシートがかけられている）

基本データ

開設年月日：2000年12月1日

所在地：宮城県仙台市青葉区片平2-1-1（片平キャンパス）

HPアドレス：<http://www2.archives.tohoku.ac.jp>

刊行物：『東北大学史料館紀要』『東北大学史料館だより』など

所蔵資料点数：歴史公文書2,200点、個人文書35件

専任職員：准教授1名、助教1名、教育研究支援者1名、事務職員2名

調査日：2011年8月24日

場所：東北大学 史料館

お話しいただいた方：史料館准教授 永田英明氏

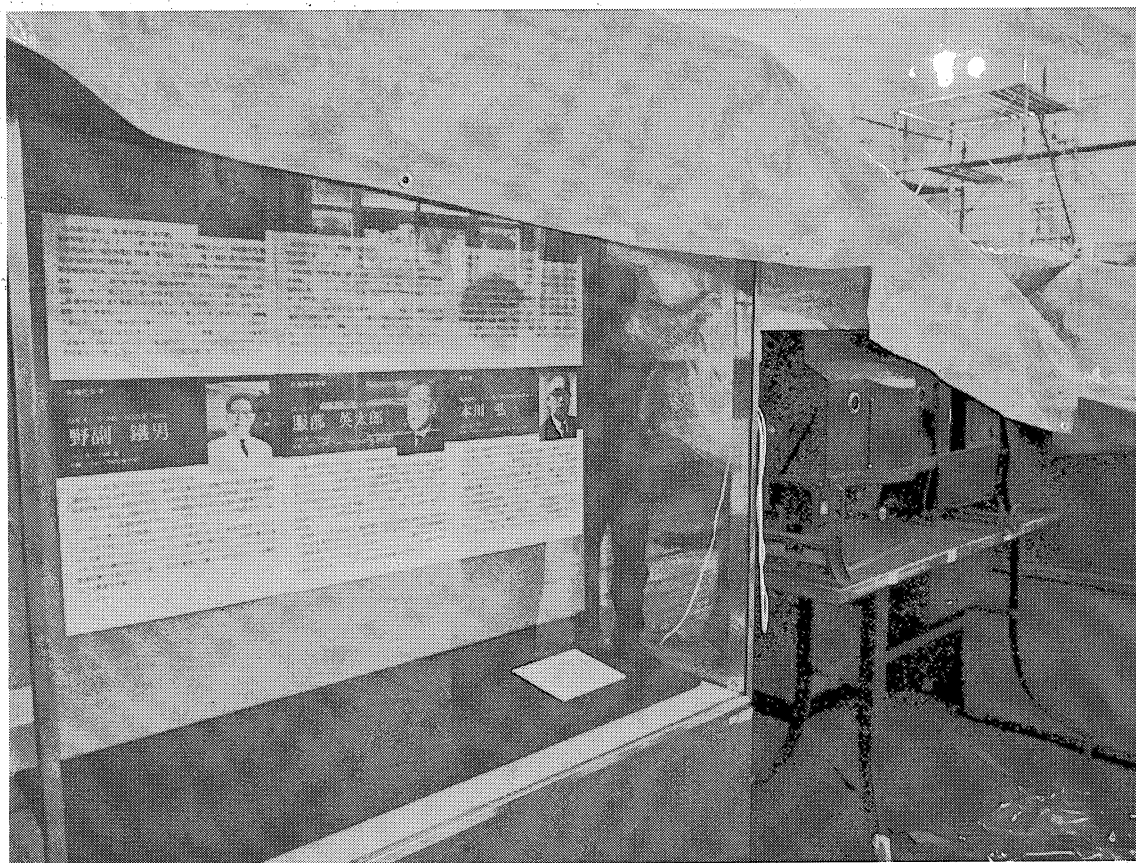
史料館教育研究支援者 徳竹剛氏

調査者：鈴木拓也（写真）、稲葉浩幸

1. 「貴学における大学アーカイヴズについて」

1-1 設置目的・設置経緯 —1963年設置の東北大学記念資料室を基礎にして—

東北大学史料館は1963年に設置された「東北大学記念資料室」を前身としている。東北大学では、1955年より五十年史の編纂事業が開始され、60年1月に『東北大学五十年史』を刊行した。記念資料室は、この『五十年史』編纂事業で利用した資料を保存し、利用に供するための組織として設置された。その後、2000年12月国立大学法人化に向けた学内組織の再編が検討されるなかで、「東北大学記念資料室」から組織変更がなされ、「東北大学史料館」が誕生した。その背景のひとつとして、2001年4月からの情報公開法の施行により、歴史的資料価値を有する大学公文書が廃棄される危険を回避するため、東北大学では公文書の保存と公開を史料館が行うことになった。



復旧工事中の展示室

1-2 組織形態 —公文書室と記念資料室—

東北大学史料館の組織としての特徴は、公文書室と記念資料室の2室体制を採用していることである。これは2011年4月の公文書管理法の施行が契機となっている。スタッフは

兼任の史料館長が1名、専任教員2名、教育研究支援者1名、事務職員2名、学生アルバイト3名で構成されている。

1-3 活動内容

文書の収集は、まず保存期間が満了した本部および各部局の法人文書を「法人文書ファイル管理簿」に基づき本部総務課で確認し、そのリストを史料館へ送付する。そのリストをもとに史料館において歴史的価値を有する資料として移管を受けるべき法人文書の候補を選定し、その後各部局と史料館スタッフとの協議を経て、移管する文書を確定する、という方式で実施されている。



史料館の案内板

文書の公開は閲覧室にて行われており、毎週月曜日～金曜日の10:00～17:00の利用が可能となっている。

展示活動も東北大学史料館において特に重要な業務となっている。これまで史料館2階展示室では常設展示「歴史のなかの東北大学」を常時公開しており、さらに2011年4月史料館1階に新展示室がオープンした。新展示室には常設展示室と企画展示室が新設され、常設展示室では「魯迅と東北大学」を公開している。

そのほかに、1年生を対象に、史料館スタッフが他の部局と連携して一般教養科目として自校史教育を開講している。また、研究活動では『東北大学史料館紀要』を年1回発行している。

2. 「貴学にとっての大学アーカイヴズの意義」について

まず、文書の移管によって残すべき文書を残していくことが大切で、その移管された文書を管理・保存していくなかで、そこに埋もれている情報を引き出して、公開していくこ

とによって大学のPRへとつなげていく。

また、大学にとってのアーカイブズのメリットとしては、「東北大学とはどういう大学であるのか」という点について、史料に基づいた説得力のあるかたちで残していくことにある。特に東北大学がアーカイブズを整備することによって、大学の歴史を地域社会に広く共有する環境を作っていく、東北大学と地域社会との関係を構築していくひとつの手段としていくことである。

3. 「国公立大学・私立大学における大学アーカイブズの意義」について

国立大学においては国が関与しているため、国民や地域の人々にとっての共有財産として公共性が高く、また法律によって規制されていることもあり、アーカイブズを構築しやすい環境にある。一方、私立大学においてはそうした環境がなく、アーカイブズを推進するには厳しい面があるが、アーカイブズを作ることによって大学をアピールし、大学の存在意義を高めていくことができる。つまり、私立大学においては大学が生き残っていくための戦略のひとつとしてアーカイブズを位置付けることが重要である。

調査を振り返って

東北大学史料館の特色のひとつとしては、やはり展示施設が非常に充実している点である。史料館2階展示室はフロアをほぼ全面的に占有しており、さらに2011年4月から史料館1階にも展示室を開設している。しかしながら、東日本大震災による被害は史料館の建物自体へも甚大であった。史料館本館は、1924年に東北帝国大学附属図書館として建てられたネオ・ルネッサンス様式の歴史的建造物であり、1986年に往時の雰囲気を残したまま改修されている。今回の地震によってその瓦屋根が落下し、特に雨が降ると雨漏りがひどいとのことであった。壁にもあちらこちらに亀裂が入り、現在2階展示室は復旧のための工事が行われている最中であったため、閉室されていたのは残念であった。その他の業務については6月から再開されたとのことで、スタッフの史料館に対する熱意が感じられた。

現在、近畿大学においても展示施設として不倒館が設置されているが、今後、本学でも展示活動をアーカイブズのなかでどのように展開していくか、東北大学史料館を参考にしながら考察していきたい。

(稲葉浩幸)